

受験生のための

九州大学歯学部 2025

KYUSHU UNIVERSITY SCHOOL OF DENTISTRY 2025



2025 4						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

2025 5						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2025 6						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

2025 7						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2025 8						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24 31	25	26	27	28	29	30
オープンキャンパス (病院地区)						

2025 9						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

2025 10						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	
総合型選抜出願期間 (10/20~10/31)						

2025 11						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 30	24	25	26	27	28	29
学校推薦型選抜出願期間 (11/4~11/7)						
総合型選抜 (第1次選抜)						

2025 12						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2026 1						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
大学入学共通テスト						
国公立大学出願期間 (1/26~2/4)						
学校推薦型選抜 (第2次選抜)						

2026 2						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
一般選抜 (前期日程)						

2026 3						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				



発行日 2025年6月1日

企画編集：九州大学歯学部 広報委員会広報誌担当
築山 能大、井上 良介、西村 優輝

九州大学歯学部についてのさらに詳しい情報は、ホームページをご覧ください。
URL: <https://www.dent.kyushu-u.ac.jp/>



九州大学医学部等学務課歯学学生係
〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1 TEL092-642-6261 FAX092-642-6263



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY



Kyushu University
Faculty of Dental Science

「口腔の健康から全身の健康に貢献する」を実践できる 次世代の歯科医師のリーダーを目指しませんか！

九州大学歯学部長 西村 英紀（山口県立萩高等学校卒）



皆さんは歯学部についてどのようなイメージを持っていますか？ ほとんどは卒業後、歯科医師として皆さんの近所の歯医者さんのように、診療所（クリニック）を開設し、地域の医療に貢献すると思っ

ているのではないのでしょうか。たしかに近所の歯医者さんが地域歯科医療の最前線であることは間違いありません。ただし、歯科医師としての人生は、地域歯科医療に貢献するだけではありません。優秀な次世代の人材を育成する教育者・指導者、新しい歯科医療の道を切り開く研究者、国や地域の医療を牽引する行政の仕事、貧困や戦禍に苦しむ地域における口腔保健の向上など、歯科医療の世界はとても広いのです。実際に卒業生の中にはWHOで活躍している方もいます。必ず、皆さんの希望や特徴を活かした進路が見つかり、希望を叶えることができると思います。歯科医療は大きな変革の時代を迎えています。ご存知のように、この半世紀の間に日本は超高齢社会に突入しました。従来の歯科医療はう蝕と歯周病の治療が主体でしたが、高齢者においては口腔機能の維持や疾患の重症化予防がより重要になり、歯科医療には大きなパラダイムシフトが求められています。また、口腔の健康が全身の健康に密接に関わることが判り、歯科医療が国民の健康寿命の延伸や高齢者のQOLの向上に貢献できると大いに期待されています。さらに、社会の高齢化とともに訪問診療の需要も増え、かかりつけ歯科医が地域包括医療の一端を担うことも求められています。しばらくの間、マスコミなどで歯科医師数が過剰であると報道されていましたが、今後は歯科治療の重要性や需要が増すにつれて、むしろ歯科医師は不足し、多くの優秀な人材が求められることになると思います。社会に求められる仕事をするのはやり甲斐がありますし、充実した人生を歩むことに繋がります。次世代を担う皆さんの力があれば、歯科医療の未来はさらに明るく輝くものになり、結果的に皆さんの人生も輝かしいものになるのは間違いありません。九州大学歯学部は、「口腔の健康から全身の健康に貢献する（Overall Well-being through Oral Health）」を理念に掲げ、教育・研究・診療を行っています。そのため、特に口腔の健康が全身の健康に及ぼす影響を追求する分野、失われた組織の再建や再生を目指す分野、そして病気の早期発見・早期予防を可能にする分野の研究に力を入れています。もちろん、歯科医師になるためには歯科医師国家試験に合格する必要がありますので、本学部で行われる教育も国家試験に合格することを目標の一つとしています。しかし、本学部の教育はそこに留まらず、先に説明した重点分野における教育・研究、さらには幅広く生命科学の教育・研究におけるリーダーとして国内外で活躍でき、高い専門性と国際性を有した人材の育成を目指しています。全教員がこの目標を達成するために皆さんの教育に全力で取り組み、充実した学びの場と機会を提供しています。探求心やチャレンジ精神が旺盛で、高い志を持った皆さんの入学を心待ちにしています。大学は皆さんの輝かしい未来の礎を築く場所です。皆さんが羽ばたく方向は無限に広がっていますので、卒業後は大きく羽ばたいて欲しいと願っています。新型コロナウイルスのパンデミックにより教育機関は未曾有の事態となりました。大学病院における診療はもちろんのこと、教育や研究面でも多大な影響を受けました。特に、学部教育では対面授業が密な状況になってしまうこともあり、オンライン授業を余儀なくされました。九州大学では10年前から全学生を対象としたPC必修化を実施していることもあり、オンライン授業も早期に開始することができました。ただし、コミュニケーション不足などのオンライン授業の問題点も多々ありました。新型コロナも収束をむかえ、学生の皆さんにとってより充実した教育が、楽しく受講できるよう、以前にもましてコミュニケーションを重視した新たな授業形態に取り組んでいます。最後になりますが、学生の本分は学びであることは間違いありません。ただし、大学生活では幅広く豊かな人間性や社会性を身に付けることも学びの一つです。本学では多くの友人、先輩、後輩、そして師と巡り合うことになると思いますが、課外活動にも積極的に参加して欲しいと思います。全学のサークルで知り合う他学部の学生との交流は人生を豊かに彩りますし、一生の友人もできます。さらに七帝戦という旧七帝国大学による体育大会もあります。また、歯学部の中にも体育系や文科系のサークルがあります。毎年、全日本歯科学生体育大会（歯学体）という全国大会にも参加していますので、経験の有無に関わらず、好きなことにチャレンジしてみてもどうでしょうか？ さらに視野を広げ、アルバイトやボランティア活動などを通して社会と十分に触れ合うことも大切です。九州大学での充実した大学生活が待っていますので、ぜひ本学部への進学を目指して受験勉強を頑張ってください。

I N D E X

目次

歯学部長挨拶	1
入学するまで	3
キャンパスライフ：伊都キャンパス時代	5
キャンパスライフ：病院キャンパス時代	7
キャンパスライフ：卒業生・在校生からのメッセージ	9
卒業後のキャリアパス	11
研究室紹介	13
OBT研究センター紹介	17
DDR研究センター紹介	19
社会貢献・社会連携	21
国際交流	22
歯学部サークル紹介	27
同窓会	28





九州大学歯学部に入學するまで

九大歯学部にはどんな學生が求められているのでしょうか。

九州大学歯学部は高度職能人としての歯科医師を養成することはもちろんですが、歯科医療や歯科医学の教育・研究におけるリーダーとして国内外で活躍できる優れた人材を育成することを教育理念に掲げています。

歯学部では学力に優れている事はもちろんのこと、九州大学教育憲章に基づく秀でた人間性、社会性、国際性を有し、また医療福祉の面から奉仕精神や倫理観に富む人材を求めています。当学部を希望する受験生の皆さんには以上のような歯学部の基本理念に沿った明確な目的意

識を持っていただくよう希望します。

そのために入学試験では多様な価値観をもった幅広い人材が選抜できるよう、学力を主たる判断基準とした前期日程個別学力検査に加え、優れた学力と共に歯科医療に対する使命感、探究心、創造性、論理的思考力、生命体への関心と深い愛情などの資質をも選抜評価基準に採用した総合型選抜と学校推薦型選抜による入試を実施しています。また、令和7年度入試からすべての入学者選抜で面接を取り入れています。

各選抜方法による募集人員

総合型選抜	： 8名
学校推薦型選抜	： 8名
一般選抜(前期日程)	： 37名

●入試倍率(令和7年度)

総合型選抜	2.6倍
学校推薦型選抜	2.5倍
前期日程	3.1倍



●歯学部入試科目(令和8年度入試)(予定)

学 力 検 査 等 の 区 分・ 日 程	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個 別 学 力 検 査 等		大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等										英 語 の リスニング の 利 用
	教科	科 目 名 等	教科等	科 目 名 等	試験の区分	国語	地歴及び公民	数 学	理 科	外国語	情 報	小論文	面接	配点合計	
前期日程	国 地歴 公民	「地総、地探」、 「歴総、日探」 「歴総、世探」 「公、倫」、 「公、政・経」	から1 面接	数 理 外 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B、 数Cから1 物、化、生 から2 英、独、仏、 中、韓から1 情報Ⅰ (6教科8科目)	数Ⅰ、数Ⅱ、 数Ⅲ、数A、 数B、数C 物理・物、 化学・化、 生基・生 から2 英(英Ⅰ、 英ⅡⅡ、 英ⅢⅢ、 論・表Ⅰ 論・表Ⅱ、 論・表Ⅲ)	大学入学共通テスト 個別学力検査等 計	100 — 100	50 — 50	100 250 350	100 250 350	100 200 300	25 — 25	— ※ —	475 700 1,175	利用する
総合型選抜	数 理 外 情報	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B、 数Cから1 物、化、生 から2 英、独、仏、 中、韓から1 情報Ⅰ (6教科8科目)	その他	総合型選抜 第1次選抜 講義に対するレポート、 集団面接、提出された書類による選考 第2次選抜 大学入学共通テストの成績 学校推薦型選抜 第1次選抜 提出された書類による選考 第2次選抜 面接、大学入学共通テストの成績	大学入学共通テスト 個別学力検査等	入学者選抜概要や 九州大学HP(入試・入学)を参照									利用する

※点数化せず段階評価

学校推薦型選抜合格者、総合型選抜合格者の声

学校推薦型選抜合格者(歯学部1年生)からのメッセージです

- ・2次試験の対策の期間に面接練習などをするので労力はかかりますが、推薦型選抜への対策を通して、歯科医師になりたい思いが強まり、より一層受験勉強へのやる気が高まりました。
- ・受験勉強の合間に対策をすることは大変でしたが、大学の進めている研究を知ることで入学後のビジョンを明確にし、九州大学で学びたいという思いがとて強くなりました。また自分が歯科医師を目指すうえで何が必要か考える良い機会になったと思います。
- ・志望理由書を考える際に、なぜ歯科医師になりたいのか、なぜ九大なのか、将来何をしたいのかを言語化することを通して、歯学への思いがより強くなりました。面接対策では、医療、特に歯学のことを調べるとよいと思います。
- ・自分の将来像や志望理由を明確にしたり、歯科業界の現状や課題等を調べておくこと面接に対応しやすいと思います。受験生の皆さん頑張ってください!
- ・『現在の自分』や『将来の目標』について、大学入学前に考えを深められたのはいい経験だと思います。明確な点数のつけられない、難しい練習に苦しみましたが、今の私には必要なものでした。
- ・志望理由書、面接対策を通して、歯学に対する情熱が強くなりました。合否にかかわらず推薦を受けることが進路決定にも生きると思います。
- ・志望理由をじっくり考えることで私が将来何をしたいのか、どうなりたいたのかといった目標が明確になり日々の勉強に対するモチベーションに繋がりました。面接対策では、興味のある分野について日頃から情報を集め、どう伝えたらいいのか考えておくようにすると実際に話すという場面できちんと自分の気持ちを伝えられるようになると思います。

総合型選抜合格者(歯学部1年生)からのメッセージです

- ・受験の機会が増えるのはもちろん、実際に歯学部棟で講義を受けることができるのでとても有意義な経験を積むことができます。対策としては、歯学の基本知識を身につけるために予備校の先生と面接練習をしました。
- ・講義レポートや面接のためには日頃から歯学関係のニュース、研究について記事等をみることはもちろんのこと、医学、工学、薬学など幅広い分野の知識を身につけるために多くの分野についても調べてみて、毎回内容や問題点について深く考えておいてください!これは歯学部合格した後も必要なことだと授業を受けて強く実感しています!
- ・初めて聞く言葉や内容が多かったが分かりやすく説明して下さったので理解できました。話をしっかり聞いて自分なりに考えたことを書くことと良いと思います。
- ・私は対策として塾の先生が用意して下さった本番で想定される講義を聞き、レポートを書くという練習を何度も繰り返しました。この対策を行うことで歯学だったり、歯科医師の周りの環境などについての知識を深めることができたため、歯科医師になりたいというモチベーションを高めることができました。このことが他の受験勉強の励みにもなったと思っています。
- ・講義は専門性の高いものでしたが、難しい用語や内容はかなり詳しく説明して下さりました。また、講義の内容自体とても興味深く頭に入りやすかったです。集団面接の際は自分のなりたい歯科医師像をはっきりと持ち、それを主軸にして面接官からの質問の受け答えや討論を行うといいと思います。受験勉強で忙しいと思いますが、歯科における基本的なことや今話題になっていること、そして歯科医師としての倫理観等を少しでも頭に入れておくこと本番で役に立つと思います。
- ・日々論文をみたり、自由研究などに触れておくこと講義に対する応用力が身につくので新たな視点を考えやすくなりました。さらにYoutubeなどで模擬講義を受けておくことより考えやすくなりました。

九州大学歯学部 オープンキャンパスと サマースクール

九州大学歯学部が受験生に贈る最高のイベント オープンキャンパスとサマースクール

サマースクールは歯学部を目指している高校生や受験生に「歯学の広がり」を知ってもらうための企画です。受験勉強の合間に「九州大学歯学部」を体験してみませんか? 令和6年は8月4日(日)にサマースクールを開催し、実習体験や病院見学を行いました。今年は**8月2日(土)**に開催する予定です。



詳細は**歯学部ホームページ** URL: <https://www.dent.kyushu-u.ac.jp/>をご覧ください。



キャンパスライフ：伊都キャンパス 時代

『口腔の健康から全身の健康に貢献する』 歯科医学の教育・研究および歯科医療を牽引するトップリーダーを育成します！

歯学部学務委員長 兼松 隆

(歯学研究院口腔機能分子科学分野教授 久留米大学附設高等学校卒)

九州大学歯学部は、歯科医学の教育・研究および歯科医療において、総合知で歯科医学・医療を牽引し『口腔の健康から全身の健康に貢献する』グローバル・リーダーの育成を目指しています。

歯学部のカリキュラムポリシーに基づき、自然科学、人文科学、基礎医学、歯科基礎医学、臨床歯学に加え、医療系統合教育や一般医学教育を実践して、次世代の歯科医師・歯科医学研究者に求められる「口腔から全身の健康に貢献する能力」を醸成するための多彩なカリキュラムを提供しています。さらに、総合科目を通して、生涯にわたり学び続ける自己研修能力を育むために、能動学習者(アクティブラーナー)として高度な専門知識と臨床技能を恒久的に維持・発展させることができる歯科医療人の育成教育を実践しています。

6年間の学部教育は、教員や同窓の歯科医師と伴に研修する1年次歯学オリエンテーション(九重研修)に始まり、歯学概論およびアーリーエクスポージャーでは、ワークショップ・グループ学習、大学病院の見学、研究室での研究入門等を通して、歯科医療、歯科医学研究・生命科学研究をいち早く学習し、仲間とのディスカッションを行って医療人・研究者に求められるコミュニケーション力を養います。このように、早期に先端の歯科医療や生命科学研究を体験して、目指すべき皆さんの将来像の形成を促します。歯学専門教育においては、先端歯科医学を深く掘り下げながら学習する講義と実習を通して、歯科医師に必要な知識・技能・態度を磨きます。また、基幹教育で培った能動学習の素養をさらに伸ばし、知識を統合して課題解決を図る能力を習熟させるために、問題解決型学習(Problem-Based Learning)やチーム基盤型学習(Team-Based Learning)などの課題解決型授業を展開しています。さらに、歯学部同窓会の学生会員として、同窓会と協働した生涯研修プログラムに学生時代から参加できます。このように、九州大学歯学部では多彩な教育手法を駆使して、社会の多様なニーズに対応できる歯科医師や歯科医学・生命科学研究者の育成教育を実践することで、歯科医学の教育・研究および歯科医療分野で活躍するグローバル・リーダーの育成を目指します。皆さんも、歯科医学界を牽引するトップリーダーとなるべく、九州大学歯学部で学んでみませんか。

令和7年度 歯学部入学者出身高校

高校名	人数	高校所在地 (都道府県)	高校名	人数	高校所在地 (都道府県)
甲南	3	鹿児島	新潟	1	新潟
城南	2	福岡	真和	1	熊本
昭和薬科大学附属	2	沖縄	神戸	1	兵庫
青雲	2	長崎	清教学園	1	大阪
筑紫女学園	2	福岡	清風南海	1	大阪
愛光	1	愛媛	西南学院	1	福岡
愛知	1	愛知	泉陽	1	大阪
浦和(県立)	1	埼玉	早稲田佐賀	1	佐賀
開邦	1	沖縄	大分上野丘	1	大分
久留米大学附設	1	福岡	大分豊府	1	大分
宮崎大宮	1	宮崎	鶴丸	1	鹿児島
熊本	1	熊本	土佐	1	高知
向陽	1	和歌山	東海	1	愛知
広島	1	広島	東筑	1	福岡
広島学院	1	広島	徳山	1	山口
広島大学附属福山	1	広島	飯田	1	長野
弘学館	2	佐賀	福岡	1	福岡
高知学芸	1	高知	福岡大学附属大濠	1	福岡
高田	1	三重	福岡中央	1	福岡
山形東	1	山形	福山	1	広島
修猷館	1	福岡	鵬翔	1	宮崎
洲本	1	兵庫	名城大学附属	1	愛知
松山東	1	愛媛			
上智福岡	1	福岡	合計	53	



基幹教育科目

【基幹教育科目】

1. 基幹教育セミナー
基幹教育セミナー

2. 課題発見科目
課題発見科目

3. 学術アプローチ科目
学術アプローチ科目

4. 言語文化科目
第1外国語(英語)、第2外国語

5. 文系ディシプリン科目

●必修科目

心理学入門

●選択必修科目

人間・社会・文化A・B、哲学・思想入門、

芸術学入門、先史学入門、歴史学入門、

文学・言語学入門、文化人類学入門、

地理学入門、社会学入門、現代教育学

入門、教育基礎学入門、法学入門、政治

学入門、経済学入門、経済史入門、The

Law and politics of International

Society

6. 理系ディシプリン科目

●必修科目

入門微積分Ⅰ・Ⅱ、入門線形代数Ⅰ・

Ⅱ、数理統計学、無機物質化学Ⅰ・Ⅱ、

有機物質化学Ⅰ・Ⅱ、情報科学Ⅰ・Ⅱ、

自然科学総合実験

●選択必修科目

力学基礎、力学概論、電磁気学基礎、

電磁気学概論、熱力学基礎、熱力学概

論、細胞生物学、生物学概論

7. サイバーセキュリティ科目

サイバーセキュリティ基礎論

8. 健康・スポーツ科目

健康・スポーツ科学演習

9. 総合科目

【2年次以降の基幹教育科目】

高年次基幹教育科目

漢方医薬学、インフォームド・コンセ

ント、薬害、臨床倫理

【1年次専攻教育科目】

歯学オリエンテーション、歯学概論Ⅰ

～4、解剖学Ⅰ、口腔組織学Ⅰ、口腔解

剖学Ⅰ・3・4、口腔生理学Ⅰ

歯学オリエンテーション

1年生は入学後、九重共同研修所にて研修を行います。令和7年は5月17日(土)・18日(日)に実施しました。



伊都キャンパスってどんなところ？

平成21年4月に旧六本松キャンパスは伊都キャンパス(通称 伊都キャン)として福岡市の西部元岡へと完全移転しました。伊都キャンパスは福岡市の中心部天神からバスで約55分のところにあり、敷地面積約245haの広大なキャンパスです。歯学部の1年生は1年間ここで過ごすことになります。



カフェテリア『Qasis』



広々とした構内



九州大学中央図書館



椎木講堂



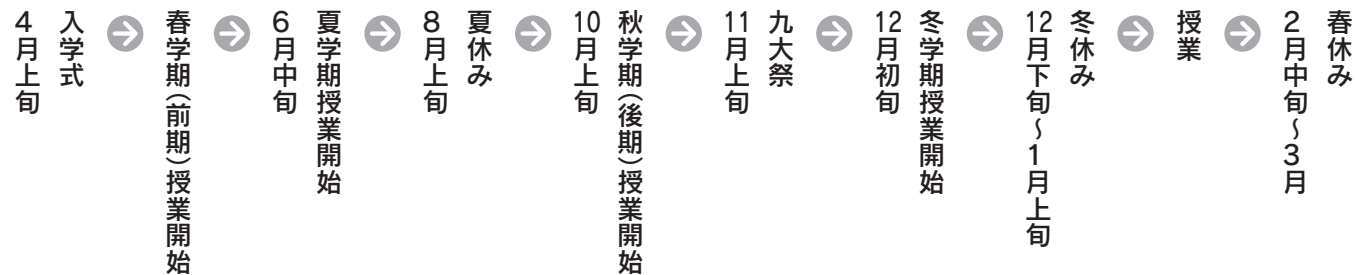
センター1号館(センターゾーン)



くつろぎのひととき

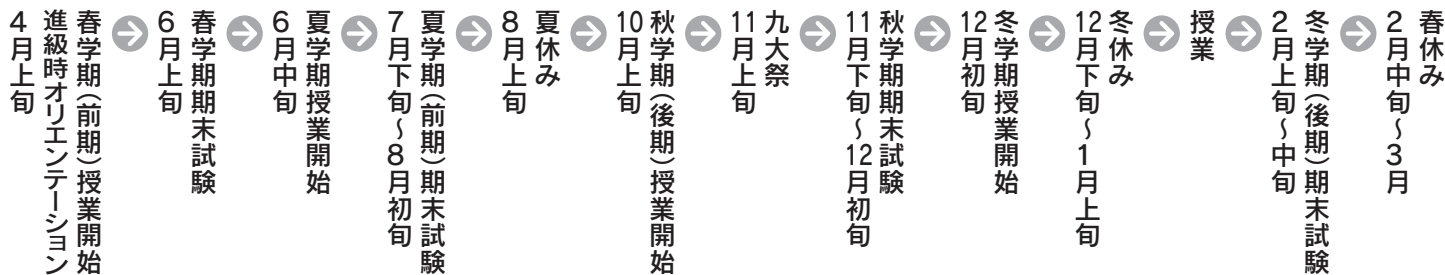
Schedule 〔第1学年〕 伊都キャンパス

※各学期末に科目によって期末試験が実施されます。



Schedule 〔第2～4学年〕 病院キャンパス

※第5～6学年のスケジュールは臨床実習等により大幅に異なります。





キャンパスライフ：病院キャンパス 時代



九州大学歯学部が目指す教育

- (1) 歯学部教育の基本である優れた歯科医師の養成
- (2) 国内外において活躍する歯科医療・歯科医学における教育・研究リーダーの育成



病院キャンパスのシンボル
「神の手」



病院外観



開放感ある通路



活気のある診療室

歯学部では、どんなことを学ぶのだろう？

九州大学歯学部の学科課程表（令和7年度入学者）

学科目	授業科目
1年次： 歯科医学総論 口腔基礎常態学	歯学オリエンテーション、歯学概論1・2・3・4 解剖学1、口腔解剖学1・3・4、口腔組織学1、口腔生理学1
2年次： 歯科医学総論 口腔基礎常態学 口腔基礎病態学	歯学総論1、歯学総論2 解剖学2、解剖学実習1・2、口腔解剖学2、口腔組織学2・3、 発生学、口腔生理学2・3・4、口腔生化学1・2・3・4 口腔微生物学、病理学1・2・3、口腔病理学1、 薬理学1・2・3、臨床歯科薬理学
3年次： 歯科医学総論 口腔基礎病態学 口腔保健学 臨床歯学	歯学総論3、アーリーエクスポージャー、リサーチエクスポージャー1・2・3 口腔病理学2、歯科理工学 口腔保健学、環境衛生学、小児歯科学1・2・3・4、 歯科矯正診断学、歯科矯正診断学実習 歯冠補綴架工義歯学、口腔画像診断学1・2、医療行動科学1
4年次： 歯科医学総論 口腔保健学 臨床歯学	歯学総論4、リサーチエクスポージャー4 歯科矯正治療学、歯科矯正治療学実習 医療行動科学2・3、障害者歯科学1・2、 歯科保存学1・2・3、歯周病学1・2・3、 全部床義歯補綴学1、全部床義歯補綴学2、部分床義歯補綴学、 口腔インプラント学、顎口腔外科学、顎顔面形成外科学、 口腔感染・炎症治療学、口腔腫瘍外科学、 歯科麻酔学1・2、歯科全身管理学1・2、高齢者歯科学 医療系統合教育科目 漢方医薬学、インフォームド・コンセント、薬害、臨床倫理、 地域包括ケアシステム 関連科目 歯科法医学、人類遺伝学
5年次： 歯科医学総論 臨床歯学	歯学総論5 歯科臨床予備実習、歯科臨床実習
6年次： 歯科医学総論 臨床歯学 関連科目	歯学総論6、歯学総論7、統合歯学、プレリサーチ 歯科臨床実習 病態制御学

体の構造・
機能、病気の
原因について
学んだよ。

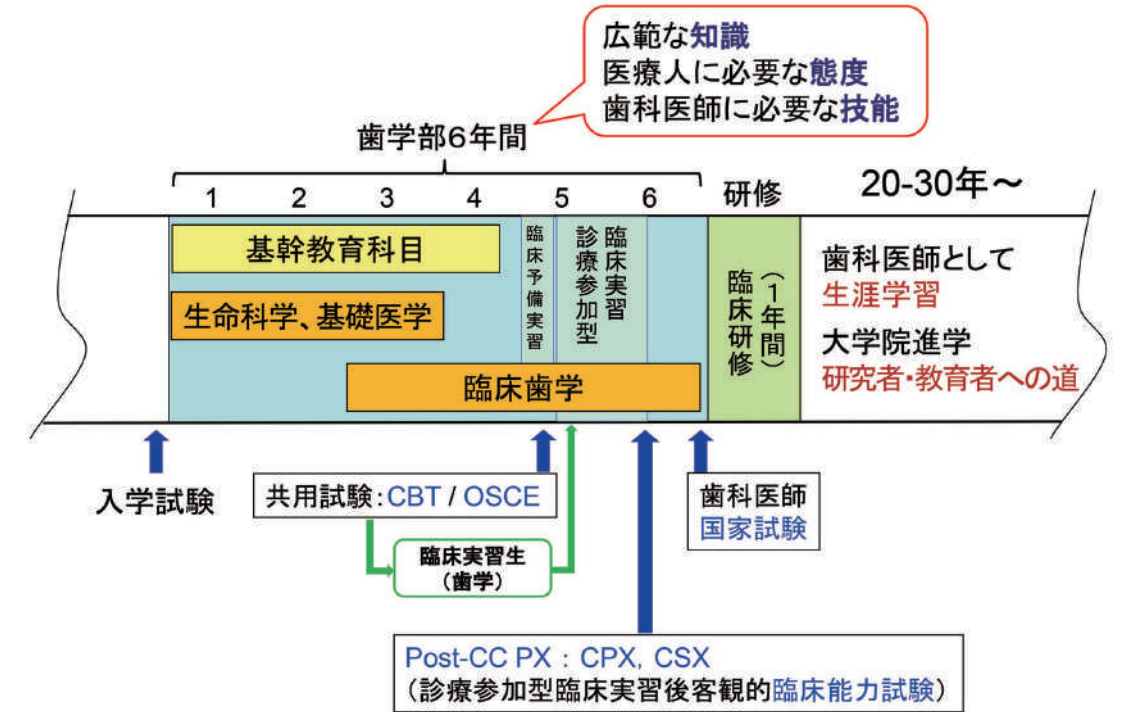
虫歯や歯周病、
口や顎の
病気のしくみと
治療法について
学んだよ。

医療面接シミュ
レーションや
グループ学習
などを通して
医療人としての
態度を学ぶよ。

九大病院で、
患者さんの
治療実習を
するよ。

※令和3年度からクォーター（4学期制）科目に改編しました。また、令和7年度入学生から、1年次から専攻教育科目を始めるように改編しました。実施時期や学修目標については、歯学部ホームページに掲載のカリキュラムマップおよび当該年度の授業時間割をご覧ください。

九州大学歯学部の学修マップ【概要（令和7年4月時点）】



学修マップ(上図)の解説

1年次は、伊都キャンパスで基礎教育科目を履修します。基礎教育では、人文系、理数系、言語文化系科目などで高い教養を身につけるとともに、基礎教育セミナーや課題発見科目等を通じて能動的学習を行います。令和7年度からは、木曜日は終日病院キャンパスで歯学部専攻教育科目の授業があり、「歯学概論」では、歯学部教員が週替わりで各分野の研究、教育、臨床のトピックを紹介し、夏学期には病院見学実習があります。また、口腔基礎常態学の科目として、「解剖学1」、「口腔解剖学1～4」、「口腔組織学1」、「口腔生理学1」を履修します。

2年次からは、病院キャンパスで学びます。2年次の前半は、解剖学、生理学、生化学などの口腔基礎常態学の科目を、後半は病理学、薬理学などの口腔基礎病態学の科目を修学します。3年次からは、臨床歯学の科目が実施され、4年次までに歯学の基礎知識を学修します。授業は講義だけでなく実習も多く、歯科医師に必要な基本的な知識・技能・態度を学修します。

基礎教育は高年次基礎教育科目として2～4年次にも実施されます。特に4年次には、医療系統合教育科目として医学部、薬学部、保健学科との合同授業が複数あり、例えば「インフォームド・コンセント」授業では、模擬患者さんにご協力いただき、多職種連携で説明と同意取得を行う実践的な実習も組まれています。

3・4年次には、リサーチエクスポージャーで各研究分野に配属され、教員とともに最先端の研究を行い、意欲ある学生はこの時点から本格的に生命科学研究をスタートさせることができます。

5年次には、臨床実習に進む前の全国共通の試験である共用試験CBT・OSCEが実施されます。CBT(Computer Based Testing)は、コンピュータを用いた「知識」に関する客観試験で、OSCE(Objective Structured Clinical Examination)は基本的臨床「技能」と「態度」を評価する試験です。共用試験に合格すると「臨床実習生(歯学)」として認定され、いよいよ診療参加型臨床実習に進みます。診療参加型臨床実習では、実際に患者さんの治療実習も行います(写真参照)。実習の最後には「診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験(Post-Clinical Clerkship Performance Examination: Post-CC PX)」と呼ばれる実技試験を行い、それまでに身につけた基本的臨床能力を評価します。そして最後に、歯科医師国家試験を受験します。このように、歯学部では、広範な知識に加えて、医療人に必要な態度、歯科医師に必要な基本的臨床能力を身につけた上で卒業できるプログラムを実践しています。

歯学部卒業後は、1年間の歯科医師臨床研修、そしてその後は、研究、臨床、教育、行政などの様々な方面に進みますが、いずれの場合でも歯科医師として生涯学習が求められます。



歯学部ならではの実践的実習
「歯科臨床実習」:

臨床実習生(歯学)として、実際の患者さんを対象に治療実習を行います。

※患者さんのプライバシー保護のため、スタッフが患者役をしています。



キャンパスライフ：卒業生・在校生 からのメッセージ

学生からのメッセージ

歯学部での充実した6年間

2024年度 歯学部卒業生 岡本真衣（明治学園高等学校卒）

こんにちは。九州大学歯学部53期の岡本真衣です。私はこの6年間で、多くの学びと貴重な経験を得ました。これから歯学部を目指す皆さんに、私が歩んできた学生生活をご紹介します。

九州大学歯学部では、1年次は自然にあふれる伊都キャンパスで一般教養科目を学び、2年次からは馬出にある病院キャンパスで歯科専門科目を学び始めます。3年次からは模型を使った実習が増え、実際の診療を意識する機会が多くなります。私自身、この頃から「歯科医師になる」という自覚を強く持つようになったことを覚えています。5年次には、歯科医学に関する知識と技術を確認するCBTとOSCEという試験があります。これをクリアすると、いよいよ九州大学病院での臨床実習が始まります。臨床実習では、指導医の先生のもとで診療に携わりながら、これまで学んだ知識を実際の臨床に活かす重要性を実感しました。治療計画の立案や症例検討なども経験し、より実践的なスキルを深めることができます。九州大学歯学部は少人数ならではのつながりが強く、学年を超えた交流も盛んです。私は歯学部サッカー部でマネージャーをしていました。歯学部の部活動では、夏に全国の歯学部生が競い合うオールデンタルという大会が開催され、他大学の学生ともつながりを築くことができます。開催校は部活毎に毎年異なりますが、サッカー部では2023年に九州大学が主幹校となって運営を行いました。当時は大変でしたが、今振り返ると企画や運営などの貴重な学びの機会だったと感じています。卒業後も気にかけてくださる優しい先輩方、可愛くて頼もしい後輩たち、そして個性豊かな同期に恵まれ、かけがえのない時間を過ごしました。

また、病院キャンパスは福岡市の中心部に位置しており、勉強だけでなく、アルバイトや部活、遊びなど、充実したキャンパスライフを満喫できる環境が整っています。ここで過ごした6年間は、私に学業面や技術面、そして人としての成長をもたらしてくれました。最先端の歯科医療を学べる環境と、支え合いながら共に学び、高め合う仲間。それが九州大学歯学部の魅力だと思います。歯科医師には、口腔のみならず全身の医学知識も求められるため、学ぶべきことは想像以上に多く、時には大変に感じることもあり

ました。しかし、同じ目標を持つ友人とだからこそ、切磋琢磨しながら乗り越えることができたと感じています。

皆さんは今、受験という大きな挑戦に向かっているかもしれません。しかし、その先には無限の可能性が広がっています。皆さんと共に歯科医学を学ぶ日を心から楽しみにしています。



九大病院を背景に臨床実習修了時



伊都キャンパスでの学位記授与式

学生からのメッセージ

歯学部に入塾して

歯学部6年生(2025年度) 松本咲良（ノートルダム清心高等学校卒）

はじめまして。歯学部6年の松本咲良です。私は現在、臨床実習生（歯学）として大学病院で臨床実習をしています。九州大学では5年の6月にCBT、7月にOSCEがあり、それに合格すると10月から臨床実習に参加することができます。直接患者さんと接し、色々な先生方の診療を見させていただく中で、臨床的な知識や技能は勿論、医療者としての姿勢も日々勉強しています。

歯学部では、1年生は伊都キャンパスで教養科目を学び、2年生から馬出キャンパスで専門科目の勉強が始まります。座学や実習を通して理解を深め、学年が進むにつれて基礎科目から臨床科目へと内容が進んでいきます。一つ一つの試験は少し大変かもしれませんが、友人と話し合いながら行った試験勉強は今では良い思い出であると共に、今後歯科医師として活躍していくにあたって確実に力になるものだったと思います。

とはいえ、学生生活は勉強だけではありません。例えば、歯学部は部活動も盛んです。それぞれ歯学部だけの部活があるのですが、私は歯学部の硬式テニス部に所属していました。夏のオールデンタル、冬の九州デンタル、他にも他大学との交流戦があ



口腔生理学(2年次)の筋電図実習

り、それに向けて日々練習しています。部員が歯学部だけということもあり、日々の練習の中で同期や先輩、後輩と仲良くなれたり、OB戦や飲み会ではOB、OGの先生方から色々なお話を伺う機会があったりします。また他大学との交流戦では泊まりで行くこともあり、交流戦や合同の飲み会を通して他大学の学生と友達になれる機会もあります。そして私の同期は女子が8人だったので特に仲が良く、部活外で遊びに行ったり、試験前は皆で勉強したりしてたくさん助けられました。勉強と部活の両立が大変な時期もありましたが、それを乗り越えて5年の夏のデンタルで引退した今、達成感でいっぱいなので何か気になる部活があったら是非入部してみることをお勧めします！歯学部での生活がより豊かな毎日になると思います。



アイルランガ大学にて
病理学実習



オールデンタルにて

留学面では、私は4年の夏にインドネシアのアイルランガ大学に行きました。日本とは違った診療設備を見学したり、普段は中々触れることができない内容の実習や講義を受けたりして九大で受けてきた講義内容への理解をより深めることができました。また、現地の学生と交流していく中でインドネシアの宗教や文化、食にもたくさん触れることができ、価値観が広がりました。こういった留学プログラムが他にもあるので、学部生のうちに海外で勉強できる機会も用意されています。

歯学部は学年を重ねるごとにどんどん面白くなっていく学部だと思います。それに、歯学部の人と一緒に過ごしていく中で人として面白いな～と思ったり、すごいな～と尊敬したりすることが多く、日々たくさん良い刺激を受けています。6年間という長い期間を少人数の同じメンバーで過ごしていくわけですが、決して飽きない毎日になるでしょう。そんな面白い同期や先輩後輩、優しい先生方、そして歯科という濃い学問と共に、皆さんと九大歯学部で学べる日を楽しみにしています！

学生からのメッセージ

学びの楽しさに出会える学生生活

歯学部3年生(2025年度) 中島 心（筑紫女学園高等学校卒）

つい2、3年前はこのパンフレットを読んでいる立場だったのが、今こうして執筆する側になっていることを感慨深く思います。医療に携わりたいという漠然とした願望からなかなか進まず将来に迷っていたとき、九州大学歯学部のホームページに載っている「口腔から全身の健康に貢献する」という言葉に出会ったことがきっかけで歯学部に興味を持ちました。そこで口腔の健康状態が全身疾患と密接に関わっていることを初めて知りました。現状、歯科医院は身体のどこかに不調を抱えているかに関わらず定期的に受診する場所です。だからこそ、患者さんの生活の近いところで長期的にQOL向上のための支援ができるところに魅力を感じ、歯科医師になることを決めました。

九州大学歯学部は、口腔に限らず医療という大きな枠組みの中で専門的に学ぶことができる環境が整っていると思います。一方で総合大学ということもあって自分の興味次第で幅広い分野に触れる機会が多くあります。一年生の時は伊都キャンパスで基本的に生活するので、私は大学の寮に住んでいました。そこで1年間生活して留学生と交流するなかで外国の友人ができた、体験的に農業を学ぶ授業を取ってトラクターを運転してみたり、ソーセージを作ったりもしました。学内に限らず、福岡で行われた水泳の世界大会にボランティアとして参加したことも非常に良い経験になりました。

学部関係なく行われる授業もあるため、たくさんの人との出会いがあり、自分とは全く違う志を持った人と関われる機会があるのは総合大学の良さだと思います。

私はまだ歯学や医学を勉強し始めたばかりの人間ですが、同じ目標に向かってともに頑張る仲間がいるありがた環境で、学びたかったことを学べている日々充実感を覚えています。自分のやりたいことができる大学生活に思いを馳せながら、時に深呼吸しながら、後悔のないようにぜひやり尽くしてほしいなと思います。みなさんにお会いできる日を楽しみにしております。



トラクターの運転体験



世界水泳ボランティア



卒業後のキャリアパス

研究中の大学院生からのメッセージ

「九州大学歯学部で学ぶ未来」

歯科保存学分野 大学院1年 橘 涼介（宮崎県立宮崎南高等学校卒）

九州大学歯学部を目指す皆さん。こんにちは。私は九州大学歯学部を卒業し、現在は研修医として臨床の現場で学びながら、将来的には大学院へ進学し、研究者としての道を歩むことを目指しています。歯学部受験を考えている皆さんに向けて、私自身の経験を踏まえながら、九州大学での学びやその先のキャリアについてお話ししたいと思います。

歯学部では6年間の学びを経て、歯科医師国家試験に合格することで、晴れて歯科医師としての第一歩を踏み出します。しかし、そこがゴールではありません。卒業後は1年間の研修医生活が待っており、この期間はまさに「歯科医師としての基礎を固める時間」です。大学で学んだ知識を実際の臨床の場で活かしながら、診療の技術や患者さんとのコミュニケーションを実践的に学んでいきます。研修先によって経験できる症例や環境は異なりますが、九州大学では高度な治療を行う専門医の先生方の指導のもとで、幅広い分野の知識や技術を磨くことができます。

研修を終えた後の進路は様々ですが、大きく分けると、一般歯科医院や病院で勤務する道と、大学院へ進学して研究に携わる道があります。私は、日々の臨床の中で生じる疑問を解決し、新たな治療法を生み出すための研究を行いたいという思いから、大学院進学を考えるようになりました。大学院というと「研究ばかりしている場所」というイメージがあるかもしれませんが、実際にはそれだけではありません。例えば、臨床系の研究室では大学病院での診療も並行して行うことが多く、専門性の高

い治療を学びながら、同時に自分の研究テーマについて探究を深めることができます。また、研究を通じて論理的思考力や問題解決能力が鍛えられるため、臨床の現場でもよりの確な判断ができるようになります。

九州大学の魅力は、歯学という枠を超えて、さまざまな分野の研究者や学生と交流できる環境が整っていることです。異なるバックグラウンドを持つ人々との出会いは、新たな視点を与えてくれるだけでなく、将来のキャリアにおいても大きな財産となります。私自身も、歯学以外の分野に携わる友人や先輩から多くの刺激を受けてきました。こうした多様な環境で学べることは、九州大学ならではの強みだと思います。

大学や大学院での学びは、決して楽なものではありません。実習や試験、研究の壁にぶつかれることもあります。しかし、その過程で得られる知識や経験、人とのつながりは、一生の財産になります。大切なのは、自分の興味や好奇心を大切にし、挑戦し続けること。大学での学びを通じて、自分がどのような歯科医師になりたいのか、どんな形で社会に貢献したいのかをじっくり考える時間を持つてほしいと思います。

九州大学歯学部には、歯科医師として、研究者として、そして一人の人間として成長できる環境が整っています。歯学への興味や好奇心を持つ皆さんが、ここで学び、新たな可能性を広げていくことを楽しみにしています。皆さんと未来の歯科医療を共に創っていく日を心待ちにしています。



研修医同期と充実した日々

●進路(卒業後臨床研修先について)

令和7年3月卒業生の進路は以下の通りです。（4月1日現在）

九州大学病院	21名
その他の大学病院など	24名
その他	8名

●歯科医師国家試験合格率

	R7	R6	R5
九州大学	88.5%	89.4%	83.8%
全国平均	70.3%	66.1%	63.5%

臨床の前線で活躍する卒業生からのメッセージ

医科歯科連携での歯科医師の役割

九州大学病院 高齢者歯科・全身管理歯科 助教 奥 菜央理（宮崎県立宮崎西高等学校卒）

私は現在、九州大学病院高齢者歯科・全身管理歯科で日々、有病者の方の歯科治療を担当しています。高齢化の進む現在、全身疾患に配慮した歯科治療は必要不可欠です。私は九州大学歯学部を卒業後、研修歯科医として急性期病院での勤務を経験し、有病者の歯科治療に興味を持ち、九州大学病院高齢者歯科・全身管理歯科に入局しました。

高齢者歯科・全身管理歯科では、主に心臓血管外科手術前後の歯科治療や周術期口腔管理、血液腫瘍内科の同種・自家造血細胞移植患者の歯科治療や口腔管理、骨代謝調整薬投与前の口腔内診査などを行っています。中でも私は、同種造血細胞移植治療を行う無菌病棟の往診業務を担当しています。同種造血細胞移植患者では、化学療法や放射線照射後、重度の免疫不全となります。その期間、歯科では感染予防のため往診にて口腔ケアや治療の副作用の重度の口内炎に対して対症療法を行います。口腔衛生状態が良好な患者は口内炎が軽症で発症期間が短い印象がありました。そこで口腔細菌叢が口内炎に影響しているのではないかと、との仮説の下、同種造血細胞移植患者の口腔細菌叢をテーマに研究をしていました。卒業後の現在も無菌病棟にて臨床研究を継続しつつ、大学病院の一スタッフとして有病者歯科治療に携わっており、たくさんの医療スタッフの方と協力しながら日々仕事ができることにやりがいを感じています。また高齢者歯科・全身管理歯科では、有病者だけでなく、高齢者の口腔に関する研究や臨床も広く行っています。大学病院での歯科医師は、歯科治療はもちろんですが、研究や教育にも携わる仕事で、日々患者や他分野、他職種スタッフなど、歯の治療だけでなく、たくさんの人と関わりながら患者さんの健康増進に寄与することのできる素敵な仕事です。

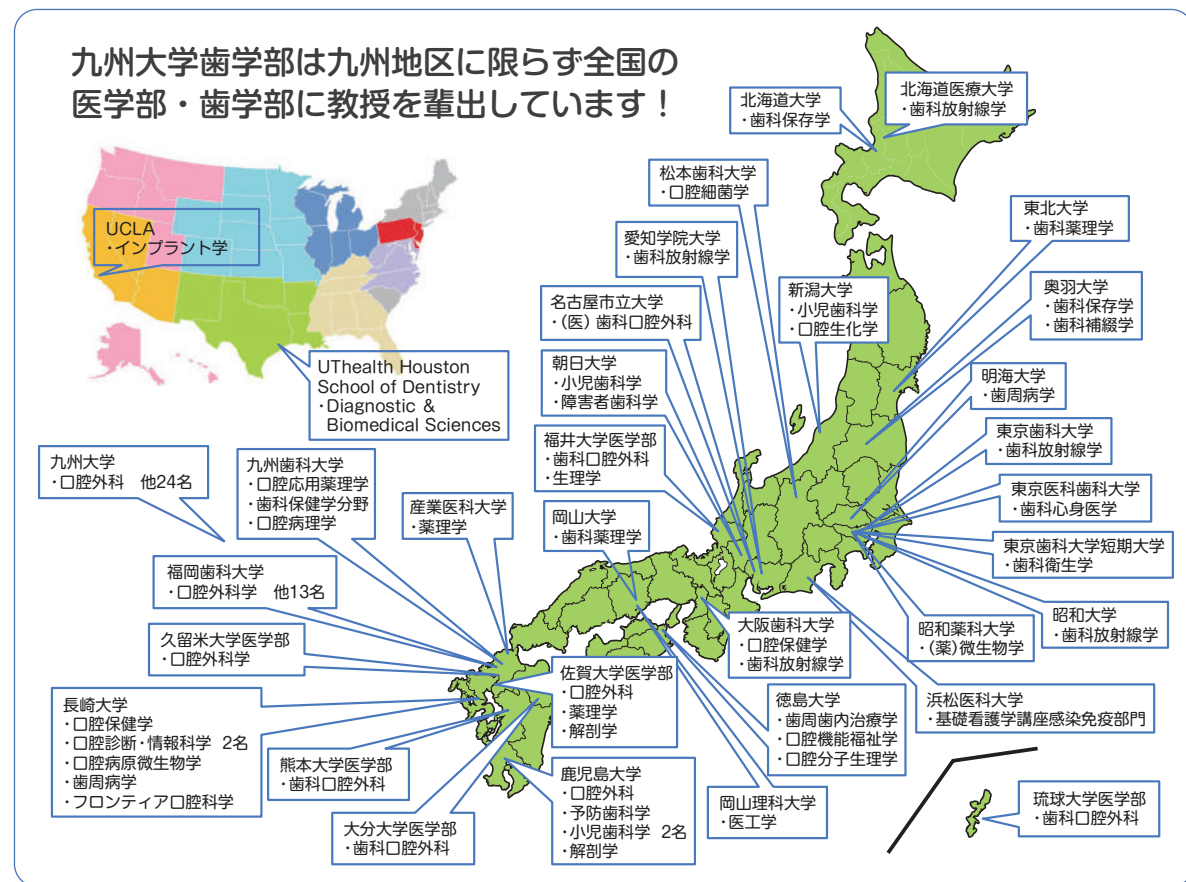
歯科に興味を持っている高校生の皆さん、歯科医師の働き方は益々無限に広がってきていると思います。九州大学歯学部でぜひ、無限に広がる可能性を信じ、夢を実現させてください。

卒業後はどんな所で活躍しているのでしょうか？

九州大学歯学部はこれまでに、多くの優れた歯科医師を輩出してきました。

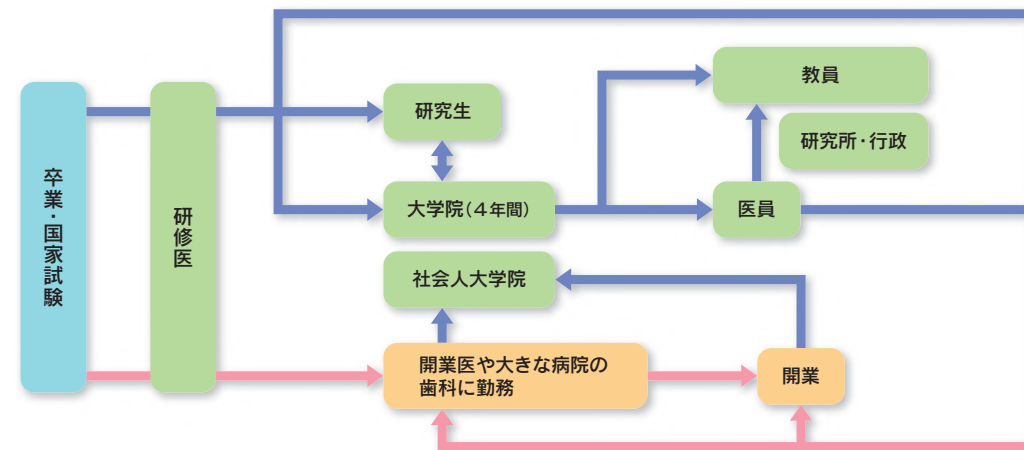
例えば、臨床の最前線で活躍し、地域医療のリーダーとして活躍している卒業生、歯科医学研究において、後輩に指導を行いながら世界で活躍している卒業生、他大学で歯学教育のリーダーとして活躍している卒業生など、さまざまな分野で活躍し社会に貢献しています。

また、九州大学歯学部は九州地区に限らず全国の医学部・歯学部教授を輩出しています。



このような人材と設備の充実した九州大学歯学部で学び、グローバル社会で活躍できる歯科医師や研究者を目指しませんか。

卒後の進路については、おおよ下の図の通りです。



注：この図がすべてのケースを網羅しているわけではありません。



研究室紹介

各研究分野では学生教育や診療を活発に行っているほか、世界をリードする研究も精力的に進めています。

口腔常態制御学講座(5研究分野)

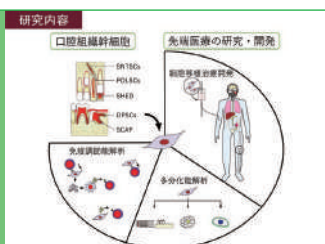
分子口腔解剖学分野

分野責任者: 山座 孝義 教授



うちの自慢

- 幹細胞による難病治療の開発を展開



歯科医学の入り口から最先端まで
—教育と研究で世界の歯科医学に貢献します!—

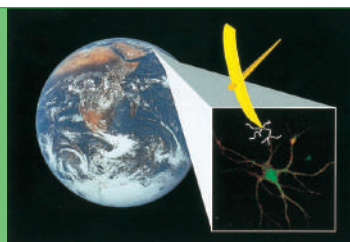
口腔細胞工学分野

分野責任者: 自見 英治郎 教授



うちの自慢

- 閉経後骨粗鬆症と体重増加を制御する本質的な共通分子メカニズムの解明と治療戦略の開発
- 口腔癌による顎骨浸潤の分子機構の解明で世界を牽引



体＝細胞のしくみを極めよう、
世界を舞台に戦いながら。

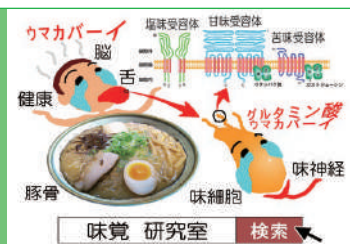
口腔機能解析学分野

分野責任者: 重村 憲徳 教授



うちの自慢

- 味覚情報の口腔-脳-腸連関を介した食調節機構の解明で世界をリード



美味しさって何だろう？
味覚の窓から身体の不思議な仕組みを見てみよう

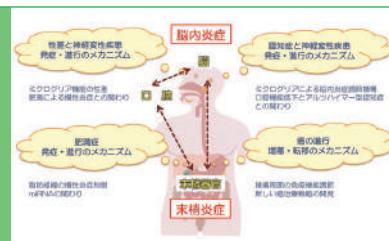
口腔機能分子科学分野

分野責任者: 兼松 隆 教授



うちの自慢

- 口腔と全身をつなぐ炎症研究で世界をリード
- 我々が発見した分子による新たな癌転移メカニズムの研究を展開



口腔科学の枠を超えて
研究者の一步を踏み出そう

口腔脳機能病態学分野

分野責任者: 自見 英治郎 教授



うちの自慢

- 健全な口腔機能を維持するための戦略的研究
- 口腔機能低下と脳・全身疾患との因果を包括的に理解する研究



心身の健康は口腔から

口腔保健推進学講座(3研究分野)

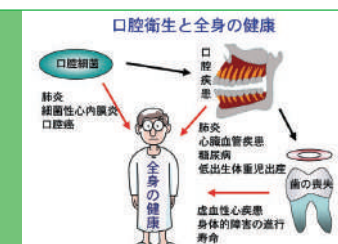
口腔予防医学分野

分野責任者: 竹下 徹 教授



うちの自慢

- 疫学アプローチによる臨床歯科医学エビデンス構築の豊富な実績
- 口腔マイクロバイオーム研究で世界をリード



病は気から、健康は口から！
だから今予防歯科

小児口腔医学分野

分野責任者: 福本 敏 教授



うちの自慢

- 小児・障がい児(者)の口腔疾患の治療と予防研究で世界を牽引
- 口腔組織を利用した再生医学研究で世界をリード



健康な乳歯は美しい永久歯の源だよ。
健康長寿に貢献できる歯科医師を目指そう。

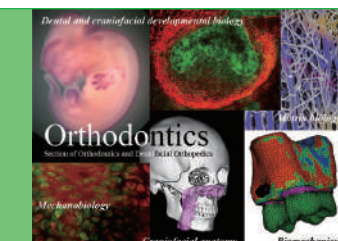
歯科矯正学分野

分野責任者: 高橋 一郎 教授



うちの自慢

- 不正咬合治療の未来を切り拓き、患者さんの健康と笑顔に貢献する研究で我が国をリード



不正咬合の診断法や治療法を改善するために先端科学を応用し、
未来の患者さんの役に立つ研究を展開しています。

口腔機能修復学講座(5研究分野)

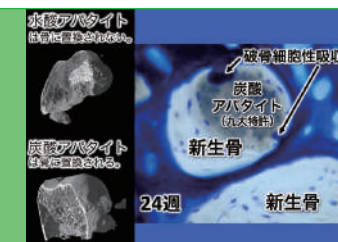
生体材料学分野

分野責任者: 石川 邦夫 教授



うちの自慢

- 世界初、骨組成の炭酸アパタイト人工骨置換材の開発・実用化に成功
- 世界初、ポリエーテルエーテルケトンへの骨伝導性付与に成功
- 世界初、多孔体形成セメントの開発に成功



九州大学が開発した炭酸アパタイトは
骨に置換される新しい材料です。

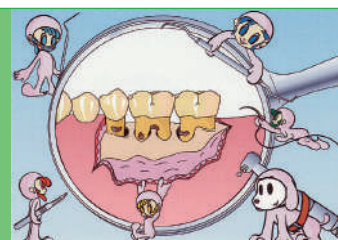
歯周病学分野

分野責任者: 西村 英紀 教授



うちの自慢

- 歯周医学のフロントランナー
- オンリーワンの炎症/再生研究



歯周病は全身の病気にも
影響を与えているんだよ。

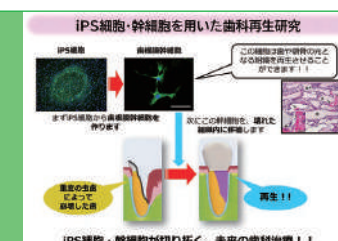
歯科保存学分野

分野責任者: 前田 英史 教授



うちの自慢

- 歯の保存と再生の研究で世界をリード



歯や歯周組織を再生させる!!
先進の治療で歯をできるだけ保存する!!



研究室紹介

クラウンブリッジ補綴学分野

分野責任者: 熱田 生 教授



うちの自慢

- 口腔機能の改善に寄与できる歯科臨床と研究
- 安全・安心なインプラント治療のシステム構築



より良い歯科治療でより良い人生を

インプラント・義歯補綴学分野

分野責任者: 鮎川 保則 教授



うちの自慢

- インプラント治療関連材料のさらなる発展に向けた研究
- エビデンスベースドデジタルデンティストリーのシステム構築



生涯、美味しく食べるために
私たちができること!

口腔顎顔面病態学講座(6研究分野)

口腔病理学分野

分野責任者: 清島 保 教授



うちの自慢

- 歯と歯周組織の再生療法を目指した遺伝子学的および分子生物学的研究の展開
- 発生過程と腫瘍形成に共通する分子基盤を解明するための革新的アプローチ



「歯の再生」、「歯周組織の老化」それから
「口腔癌」に関する研究を行っています。

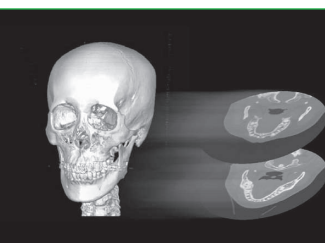
口腔画像情報科学分野

分野責任者: 筑井 徹 教授



うちの自慢

- 最新の医療画像を用いた顎顔面疾患の診断基準に関する研究
- 画像情報処理による診断支援を展開



あなたの真実の姿がここに...

顎顔面腫瘍制御学分野

分野責任者: 川野 真太郎 教授



うちの自慢

- 口腔腫瘍などの難治性口腔疾患の病因・病態を解明し、新規治療法開発への橋渡しとなる研究を展開



九大世界のその名と輝け、見よ我が教室新人群れたり
ー北原白秋作詞教室歌より

口腔顎顔面外科学分野

分野責任者: 森山 雅文 教授



うちの自慢

- デジタルトランスフォーメーション(DX)を応用した手術法の開発
- 臨床免疫学を基盤とした口腔粘膜疾患の病因解明



口腔外科は君を、
哲学者か生物学者か彫刻家に変身させるだろう。

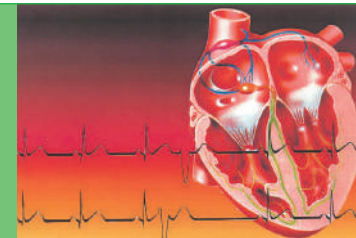
歯科麻酔学分野

分野責任者: 横山 武志 教授



うちの自慢

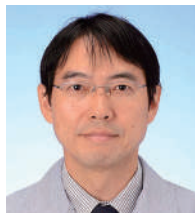
- 周術期の糖代謝とインスリン抵抗性に関する研究で我が国をリード
- 独自の歯科治療中の心停止に対する対処方法がヨーロッパ蘇生評議会ガイドラインに



身体の状態を把握し、その変化に対応できる
歯科医師 * * * それが歯科麻酔科医

高齢者歯科学・全身管理歯科学分野

分野責任者: 柏崎 晴彦 教授



うちの自慢

- 超高齢社会のニーズに対応する臨床研究で世界をリード



Dentistry is a Work of Love.(思想家 内村鑑三氏筆)
歯科は愛の仕事である。

総合歯科学講座(2研究分野)

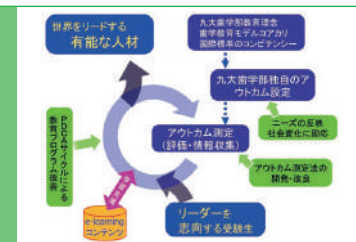
歯科医学教育学分野

分野責任者: 築山 能大 教授



うちの自慢

- 研究・臨床・教育のリーダーを養成するため、課題解決型の教育を展開
- 生涯学び続ける「アクティブラーナー」を養成



九大歯学部モデル
「アウトカムベース教育プログラム」の概念図

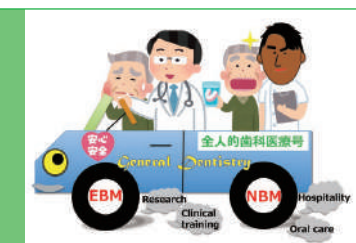
総合診療歯科学分野

分野責任者: 和田 尚久 教授



うちの自慢

- 生活習慣病や全身疾患に関連した歯科的アプローチに関する研究
- 全人的な歯科医療を実践する歯科医師の育成および教育研究



患者さんが満足する全人的な歯科医療の発展を目指して、
臨床・人材教育・研究を行っています!

歯科先端医療評価・開発学講座(寄附講座)

歯科先端医療評価・開発学講座

講座責任者: 鮎川 保則 教授



うちの自慢

- 最新の歯科材料や医療技術の中から、より優れたものを選択し現場に届ける



患者さんの安心安全のために、術者の便利のために、
企業の開発のために一生懸命研究しています!



OBT研究センター紹介

歯学の強みを生かした研究で国民のQOLの向上を目指す

OBT研究センター

Oral health・Brain health・Total health (OBT) 研究センターは、平成28年度に口の健康が脳の活性化を導き、全身の健康へ寄与することを包括的にサイエンスする研究センターとして設置されました。OBT研究センターは歯学研究院でキラリと光る若手・中堅層を分野ヒエラルキーから抜き出し、Principal Investigator (PI) として独立させ、各自の研究をより発展させることを目指しています。これまでに当研究センターから3名が教授として独立致しました。令和6年度から2名の新たなメンバーを加え、OBT研究センターを統括する教授1名のほか、准教授4名、講師1名、助教2名が所属しています。



主な研究内容

1. iPS細胞を用いた歯周組織再生

歯根膜は、歯の植立維持および咬合圧感覚受容において主要な役割を有し、咀嚼機能の維持に必須の組織です。歯根膜が不可逆性のダメージを受けた場合、これを再生する効果的な方法はいまだ確立されていません。最近、ヒト歯根膜細胞の細胞外基質を用いてヒト皮膚由来のiPS細胞から歯根膜幹細胞様細胞を樹立することに成功しました。そこで、幹細胞を用いた新規歯根膜再生療法を確立することで歯の寿命ひいては健康寿命の増進を目指します。

2. 唾液腺異常の分子基盤

シェーグレン症候群やIgG4関連唾液腺炎などの唾液腺疾患は、唾液分泌が低下し、口腔粘膜疾患の増加を引き起こすだけでなく、摂食嚥下障害により誤嚥性肺炎を招くことがあります。しかし、その治療法としては唾液分泌促進薬などの対症療法しかなく、根治的な治療法は存在しません。そこで、それらの唾液腺疾患における唾液腺障害のメカニズムを解明することにより、新たな標的分子治療法の確立を目指します。

3. 口腔マイクロバイオームと健康との関連の解明

口腔は膨大な数の細菌、真菌、ウイルス等が複雑に作用し合いながら共存する一つの微生物生態系です。このような環境で発症するう蝕や歯周炎をはじめとする口腔感染症の克服には、直接疾患に関わる病原微生物だけでなく、微生物群集の全体像(マイクロバイオーム)のシステムとしての理解が不可欠です。大規模な被験者集団から採取した口腔微生物群集検体を解析し、データサイエンスアプローチを駆使して口腔マイクロバイオームと健康との関連を明らかにし、「健康な口腔マイクロバイオーム」の育成と誘導を基盤とした新たな口腔保健管理アプローチの確立を目指しています。

4. 甘味感受性調節に関わる分子・生理基盤の解明

5つの基本味(甘、塩、酸、苦、うま味)のうち、甘味は生体活動にとって必要不可欠なエネルギー源のシグナルであり、肥満や生活習慣病とも密接にリンクします。これまでに甘味感受性の促進および抑制機構について明らかにしてきました。甘味感受性調節に関わる分子・生理基盤の全容を解明することは肥満や生活習慣病の予防に繋がることが期待されています。

5. アルツハイマー型認知症に性差が生じるメカニズムの解明

アルツハイマー型認知症は女性に多くみられ、その患者数は男性の約2倍であることが知られています。しかし、そのメカニズムはまだわかっていません。慢性炎症(肥満、歯周病など)、閉経や加齢による性ホルモンの変化など、生体恒常性が破綻したときに、脳内の免疫応答の性差がアルツハイマー型認知症発症・進展の性差となって現れるのではないかと考えて研究を行っています。性差が生じるメカニズムを明らかにすることで、より個別性の高い予防戦略の提案と、新しい治療薬開発のきっかけとなることを期待されています。

6. 歯周病のアルツハイマー病への関与メカニズム

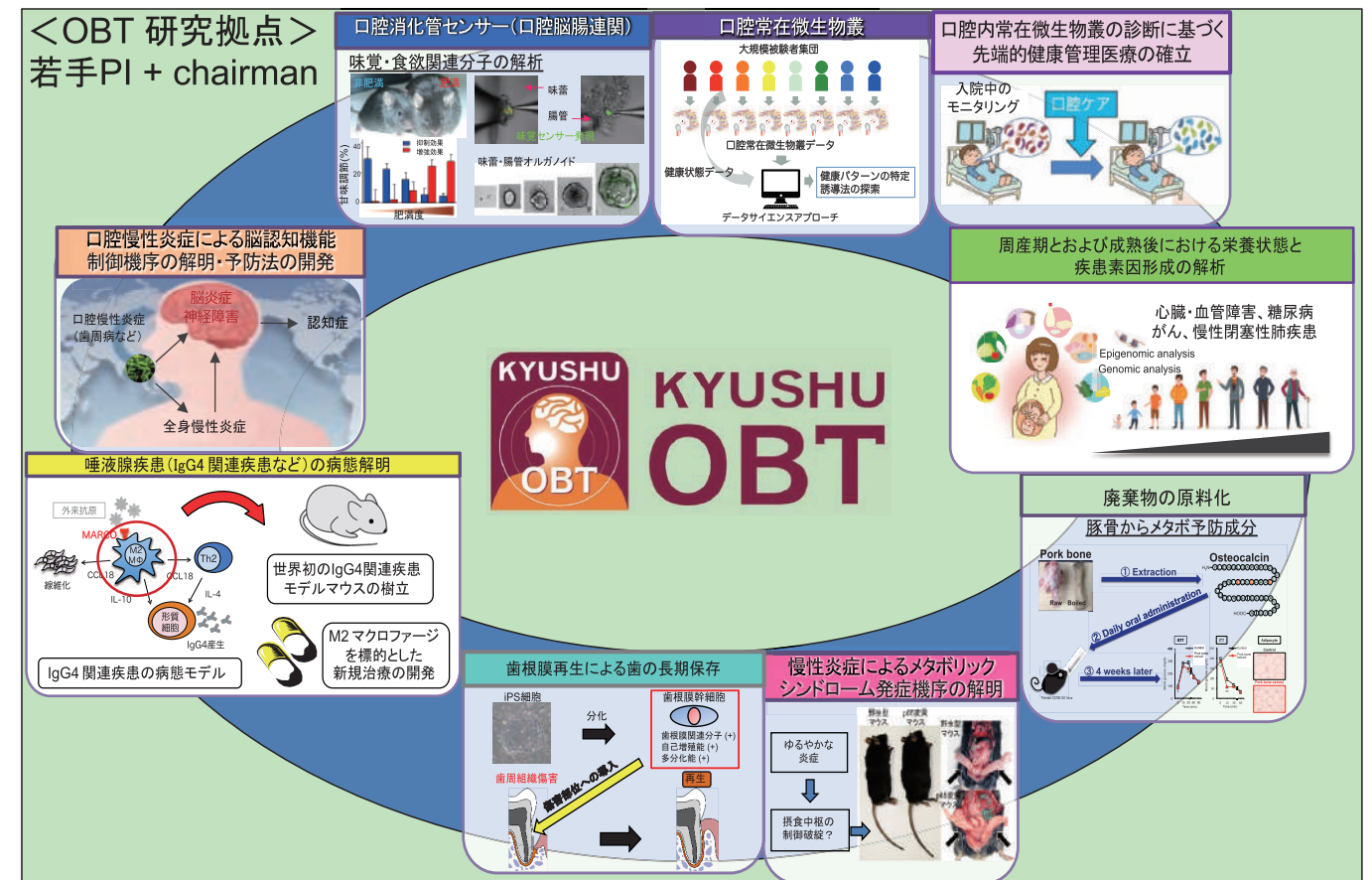
重度歯周病の罹患は認知機能低下と正相関し、歯周病菌のPorphyromonas gingivalis (Pg) 菌の内毒素LPSが認知症の7割を占めるアルツハイマー病患者の脳内に検出されています。我々はPg菌のアルツハイマー病への関与メカニズムの解明に取り組んでおり、これまでPg菌とそのLPSがアルツハイマー病脳病態を誘発し促進する、全身炎症を増大させる、全身でアミロイドβ産生を誘導する、全身のアミロイドβを脳内輸入させるといった多面的にアルツハイマー病の誘発と病態進行に関与することを明らかにしてきました。歯周病のアルツハイマー病への関与機序を究明し、認知症予防のため有効な情報発信が期待されています。

7. 妊娠母体の栄養状態による次世代生活習慣病発症メカニズムの解明

超高齢社会を迎えた我が国では、「口腔機能の健康」と「適切な食生活と栄養摂取」が健康寿命延伸とQOL向上のために重要視されています。従来、病気の原因は、主に遺伝や出生後の環境にあると考えられてきましたが、出生前(妊娠母体)の栄養状態も、子の病気の発症に影響を及ぼすことが分かってきました。そこで、研究チームでは、妊娠母体が摂取する各種栄養素やその代謝産物が、子の各種生活習慣病の発症や進行に及ぼす影響を追究しています。

8. 口腔機能が全身の健康状態に与える影響の検討

咬むことや飲み込む機能が回復することは歯科医師にとっての喜びです。しかしながら、これらの機能は年齢や病気などの影響により、低下することがあります。そこで、病院の患者さんや地域にお住いの住民の方を対象に、口腔機能を評価し、それらが認知機能や運動機能にどのように関連しているのかを調査しています。さらには、口腔機能を改善させるアプリケーションソフトの開発をしており、口腔機能に着目した介護予防法の確立を目指しています。





DDR研究センター紹介

口腔組織の発生を理解し再生医療を先導する

DDR研究センター

近年の急速な医学研究の発展により、再生医療等の医療技術が開発され、臨床に応用されるようになってきました。歯科においても齲蝕や歯周病の病態解明や治療技術の開発、予防医学の推進が積極的に行われ、これら疾患がコントロール可能な状況になってきました。しかし超高齢化社会においては、高齢者の口腔機能低下や機能崩壊（オーラルフレイル）が問題となり、これらが誤嚥性肺炎、脳血管疾患、高血圧や糖尿病といった生活習慣病の発症に関わることが明らかになってきました。そこで失われた口腔機能を回復する目的で、生体内に存在する組織幹細胞と人工生体材料を組み合わせた再生医療技術の開発、さらに組織幹細胞を利用した疾患モデルの作出による治療法開発、産学官連携による人材育成を目的とし、歯学研究院では歯科発生再生研究 (Dento-craniofacial Development and Regeneration research) センターを令和3年度に設置し、世界最先端の教育・研究・医療に基づくイノベーションの創出を目指します。



主な研究内容

1. 歯髓由来組織幹細胞(歯髓幹細胞)の大量生産技術の開発

歯はエナメル質、象牙質、セメント質といった硬組織と歯髓と呼ばれる軟組織によって構成されています。歯髓の中の約0.1-0.5%程度の組織幹細胞と呼ばれる細胞が存在し、この細胞は神経を作る細胞、骨を作る細胞、脂肪を作る細胞など、様々な細胞に分化することができることから、再生医療に利用可能な細胞として着目されています。しかしながら含まれる細胞がそれほど多くないことから、効率良い細胞精製法の開発や人工的に組織幹細胞を誘導する技術の開発に取り組んでいます。大量生産が可能になることで、1つの歯から得られる組織幹細胞で、多くの患者の治療に応用することができます。

2. 歯髓幹細胞を用いた全身疾患治療法の開発

歯髓に存在する組織幹細胞である歯髓幹細胞は、各種細胞に分化するのみならず、免疫反応の調整にも大きく関わっています。また細胞の死に関しても、それを抑制する効果も発見され、一つの細胞が様々な機能を有していることがわかってきました。マウスなどの動物モデルにおいては、脳梗塞や脊髄損傷などにおいて歯髓幹細胞を疾患部位へ注入することで、これら疾患の症状を改善します。また肝臓の機能障害や腸の蠕動運動障害を示す疾患においても、歯髓幹細胞を用いることで、これら疾患の治療に応用できる可能性が出てきました。このように歯髓幹細胞を様々な疾患へ治療に応用するために基盤研究を実施しています。また歯髓幹細胞の多分化能を利用し、様々な全身疾患の病態を歯髓幹細胞を用いて試験管内で再現することで、病態の発症原因や治療薬剤の探索に応用しています。

3. 各種器官構築技術の開発

再生医療の最終ゴールは、必要な器官を丸ごと再生することです。歯科においては口腔内に存在する歯や唾液を産生する唾液腺を再生することができれば、歯を失っても歯を再生し、唾液分泌機能を

を改善することで、摂食や嚥下といった口腔機能を回復させることができます。また歯や唾液腺の発生は、毛や肝臓、肺、腎臓等と共通の発生メカニズムを有することから、歯の器官構築技術の開発は、多くの器官形成に応用可能な技術となります。そこで細胞の3次元構築技術を用いて、歯の人工的な誘導技術の開発を行っています。

4. 歯の発生過程に重要な遺伝子群の網羅的解析

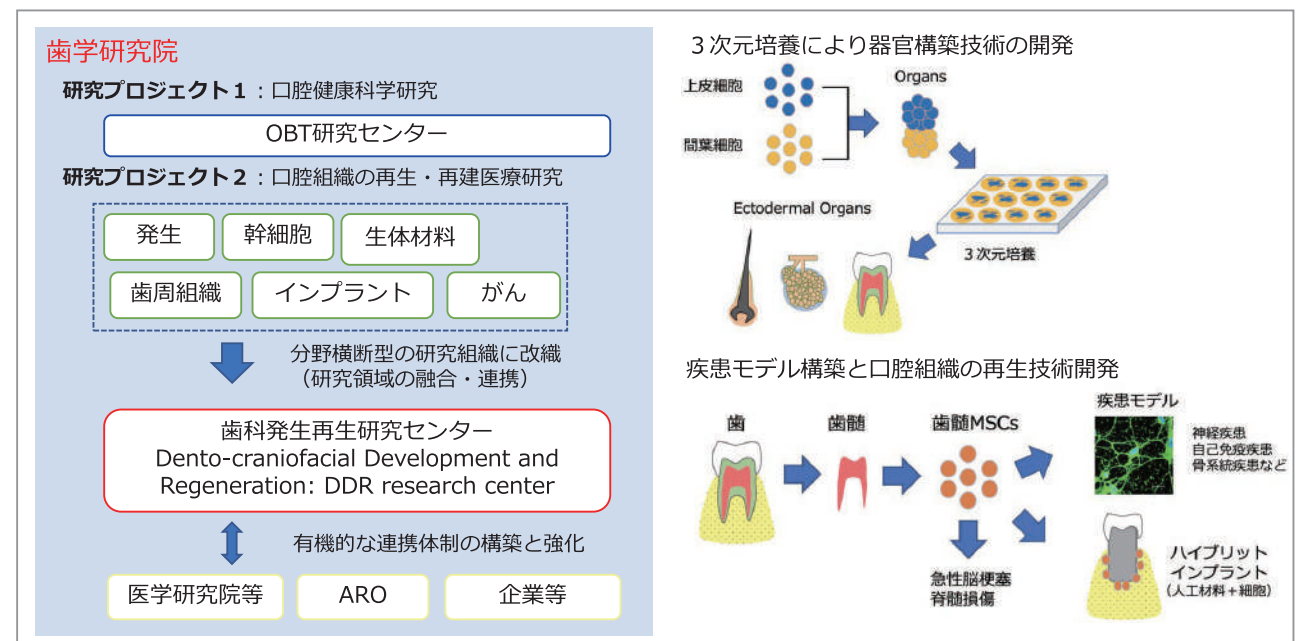
歯を再生させるためには、歯がどのようにして形成されるのかしっかり理解する必要があります。次世代シーケンサー等の革新的な分子生物学的技術の発展により、歯を構築する一つ一つの細胞が、どのような遺伝子を発現しているかを時空間的に網羅的に把握できるようになってきました。また個々の遺伝子がどのような役割を演じているかを知ることでも重要です。歯に特徴的に発現する遺伝子の機能解析により、歯を構成する細胞群の分化メカニズムを詳細検討しています。

5. iPS細胞等を用いた歯の再生技術の開発

iPS細胞は、体を構成する全ての細胞に分化可能な万能細胞です。歯がどのようにできるのかということを明らかにしていく過程で、歯の発生に重要な分子を見つけ出し、その分子の機能を制御することで、iPS細胞から歯の形成細胞であるエナメル芽細胞(エナメル質を作る細胞)、象牙芽細胞(象牙質を作る細胞)を人工的に誘導する技術を開発しました。またこれら歯を作る細胞を組み合わせることで、iPS細胞から歯を作ることも可能になっています。しかし実際に臨床に応用するためには、できた歯の安全性の確保、歯の大きさや形の制御が必要になってきます。より正確で確実な歯の再生技術の開発に取り組んでいます。

6. 新規生体材料を用いた歯周組織再生

歯周病は、歯を支える歯槽骨の破壊を伴う疾患であり、支える骨の喪失により歯が脱落します。またそこにインプラントなどで人工的な歯を再建する場合にも、失われた骨を再生することは極めて重要です。これまで多くの人工骨補填材が開発されてきましたが、生体の骨と完全に類似のものを作るには至っていません。そこで生体の骨の特徴を理解しながら、安価で効率的に骨を再生する材料の開発に取り組むとともに、生体親和性の高いインプラント体についても企業と連携しながら開発に取り組んでいます。





『歯科医師として参加する災害時の医療支援活動』 ～令和6年能登半島地震への歯科医療支援活動を通じて思うこと～

歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座 口腔顎顔面外科学分野 助教 杉山悟郎（大分県立大分南高等学校卒）

福岡県JDATの派遣メンバー（歯科医師2名、歯科衛生士2名）として、2024年2月27日から3月2日まで能登半島地震で被災された石川県珠洲市での災害時歯科医療支援活動に従事しました。JDATは日本災害歯科支援チームのことで、緊急災害歯科医療や避難所での口腔衛生を支援する目的で設立された団体です。普段は通常の歯科業務をしています、災害時に要請を受ければ、支援活動を優先的にを行います。被災地には高齢者が多く、入れ歯を無くしたり、破損してしまったりした方などがいました。咀嚼ができなければ食事を十分に行えず、消化器症状が現れて体調を壊すことにつながります。口腔機能の低下により誤嚥性肺炎のリスクが高くなることも知られています。また、被災地では周りの人たちと共同生活となるため、会話やコミュニケーションを密に行うことが重要です。しかし、発音が不明瞭になったり審美的な面を気にしたりして会話を十分に行えない方がいました。

こうした口腔環境の改善は、災害発生から少し経過した慢性期や復興期に特に重要になってきます。そして、そうした取り組みは歯科医師や歯科衛生士、歯科技工士などデンタルスタッフで構成されたチームでないと成しえない支援です。改めて災害時における歯科医療の重要性を認識したように思います。災害時には医師や保健師など様々な支援団体が被災地で活動をしています。そうした多職種のチームとも連携を取りながら、被災地のニーズに合った支援活動を行うことが重要です。



多職種ミーティング
災害対策本部では多くの支援団体が集まり、支援活動の内容や予定を情報共有していた。



避難所の様子
多くの方が共同生活をしているため、体調管理やコミュニケーションが重要となる。

それをスムーズに行うため「災害コーディネーター」という役割が重要になってきます。歯科ではまだ十分に認知されていない場合もあり、今後の課題も見えてきました。幸い、九州大学病院では早くから積極的にこの分野に取り組んでいたため、私自身も今回こうした災害支援に関わる機会を得ることができ嬉しく思っています。普段は気にしていないのに、頭の片隅には「災害への意識」が常にある。そんな自然体でこれからも災害歯科医療に従事していきたいと思っています。

『患者さんが安心安全な歯科医療を受けられるための研究』 患者と術者と企業をつなぐ存在を目指します

歯学研究院 歯科先端医療評価・開発学講座 助教 木下康平（西南学院高等学校卒）

歯の治療をしてもらったことがありますか？

歯科医院で使われている道具や材料は数え切れないほどあります。そのどれを使えば患者さんにとって一番良い治療になるのでしょうか？本講座では、「痛くない」「噛める」「きれい」「はずれない」「壊れない」はもちろんのこと、



当講座の研究室（歯科製品の評価・開発のために日々頑張っています）

「より美しくなりたい」「より美味しく食べたい」、そしてその状態を「より長く続けたい」といった患者さんのニーズに応えられる最新の歯科材料や医療技術を、評価し、改善し、開発することを目指しています。

講座開設から5年が経ちました。株式会社ジーシーなどの大手企業や他大学などと連携しつつ、患者さんだけでなく術者のために今後も変わらず研究を進めてまいります。



2019年4月1日開設



留学生からのメッセージ

九州大学大学院 歯学府 口腔病理学分野 大学院4年生(2025年度) Dania Zuhier Ragheb Alkhatib

九州大学大学院歯学研究院における国際的な博士課程の学生としての私の歩み

パレスチナ出身で、九州大学大学院歯学研究科の口腔病理学専攻に在籍する4年目の博士課程の学生として、私の道のりは学び、成長、そして異文化の理解の連続でした。日本文化は、尊敬、家族中心、そして寛大さという点で、パレスチナ文化と共通点が多いことを深く感じており、その美しさを強く尊重しています。

なぜ九州大学大学院歯学研究科を選んだのか？

九州大学とその歯学研究科は、学問的な卓越性において非常に高い評価を受けており、高水準の教育を提供し、学部生と大学院生との間で有意義な交流を促進しています。学生オフィスのスタッフは非常にサポートが手厚く、フレンドリーで、キャンパスには素晴らしい施設、例えば美しい図書館やジムがあります。歯学部教員は豊富な経験を持っており、学問的成功を収めるための理想的な環境が整っています。

私の学歴、キャリア、研究の焦点

私は政府の大学入試試験で97.5%の平均点を取得し、パレスチナの名門大学であるアルクツズ大学で歯学を学ぶ機会を得ました。私は歯科医師として、口腔疾患の病因を理解し、診断と治療の改善に貢献することに深い関心を持っています。この情熱から、イギリスのロンドン大学クイーンメアリー校で口腔病理学の修士号を取得しました。また、腫瘍学に興味を持ち、パレスチナでアルハヤットがん対策協会の広報担当および会長を務め、アルクツズ大学で講師としても活動し、歯科医院での診療も行っていました。

研究をさらに進めるために、私は九州大学の口腔病理学教室を博士課程で選びました。この分野の広範な研究は、私の知識と専門性を拡大するのに理想的な環境を提供しており、口腔癌に対する深い研究が行われています。また、がんへの認識の重要性を認識し、博士課程2年目に沖縄科学技術大学院大学(OIST)で行われた日本SCICOMフォーラムで、「がん制御のための協力的アプローチ：科学と社会の架け橋」というテーマで講演を行う機会を得ました。

知識を追い求める長い道のり

アラビアのことわざ「教育を求めて、たとえそれが中国に行くことになっても」という言葉があります。これは、距離に関係なく知識を追い求める重要性を強調しています。この哲学に従い、私はパレスチナから最も遠い国の一つである日本へ、二日以上かけて旅しましたが、ここで私は学問的、そして個人的にも成長を遂げることができました。口腔病理学の研究室で学び、多様な教授陣から異なる視点や教授法を学ぶことができ、研究に対する多角的なアプローチを身につけることができました。

成果と貢献

私は日々、家族や母国、そして九州大学への感謝の気持ちを込めて学業と研究に取り組んでいます。その努力が認められ、博士課程2年目の中間評価で最優秀発表賞を受賞しました。この成果により、頭頸部がんに関する研究をKOB、OBT、DDRの第8回国際シンポジウムで発表する機会を得、また、長崎大学で行われた第66回日本口腔生物学会で口腔病理学分野の優秀発表賞を受賞しました。



最優秀プレゼンテーション賞 大学院中間発表



KOB OBT DDR
シンポジウム

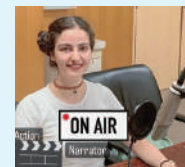
同級生同士の支援の重要性を理解し、私は博士課程の学生たちが集まり、研究や授業を邪魔することなく、便利な時間に様々なトピックを学ぶための勉強会を設立しました。この取り組みは強力なサポートシステムを築き、教育に対する視野を広げました。

また、私はケンブリッジ大学、ロンドン大学、アルクツズ大学と共同で研究プロジェクトを行い、その成果として博士課程3年目にパレスチナのローカルハットン賞で第一位を受賞しました。この経験は私の研究能力を強化し、学問的な道を進み続ける動機となりました。

文化交流と国際化

私は週末や休暇に、積極的に社会に良い影響を与える活動に取り組んでいます。5カ国に住み、さらに多くの国を訪れてきた私は、国際的な市民であると考えています。国際化を促進し、多様性を尊重することを強く信じています。九州大学国際化委員会(SCIKYU)のメンバーとして2年間活動し、キャンパス内に国際料理コーナーを設けるアイデアを提案しました。この提案は承認され、伊都キャンパスのビッグオレンジカフェテリアに国際料理コーナーが開設され、国際学生と日本人学生が多様な料理を楽しめるようになりました。日本料理の美味しさや手頃さを深く感謝しつつも、国際学生にとって食べ物もたらす安らぎと喜びも理解しています。

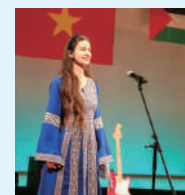
九州大学の大学院歯学研究院での国際学生としての経験を共有することは私にとって重要であり、他の学生にもこの大学に入学してもらえるようにと願っています。そのため、私は英語のYouTubeチャンネルで紹介ビデオのナレーターを務めました。さらに、パレスチナで行われた第1回国際多分野乳がん会議で、女性の影響力とリーダーシップ育成の一環として講演する機会も得ました。また、ドバイの高校生たちに九州大学での私の歩みを紹介し、将来の大学選択を探るために訪れた際にも話をしました。



九州大学歯学研究院
ナレーター

日本文化とコミュニティの受け入れ

日本に住む中で、私は日本社会に溶け込み、帰属感を感じるよう努力しています。「外国人のダニア」ではなく、「福岡のダニア」として受け入れられることを目指しています。日本文化を深く理解するため、私は九州大学での日本語や文化の授業に積極的に参加しました。この準備のおかげで、私は複数の日本語スピーチコンテストで賞を受賞し、NHKや複数の新聞にも取り上げられることができました。そして、最終的には福岡国際学生協会(FOSA)の会長として、24人の多国籍メンバーとともに活動をしています。



FOSA会長 Speech

未来の学生たちへの励まし

私は学生たちに九州大学大学院歯学研究科に参加し、学問的な夢を追い求めてほしいと強く願っています。誰もが自分だけの成功への道を持っており、空が無数の星で輝くように、すべての学生には自分の方で成功する可能性があるのです。自分自身の道を歩み、卓越を目指すことで、素晴らしい成果を達成することができるでしょう。

九州大学は私に学問的・個人的な成長のための大きな機会を提供してくれました。私の経験が、他の人々が教育、発見、そして文化交流の旅に出ることをインスパイアすることを願っています。



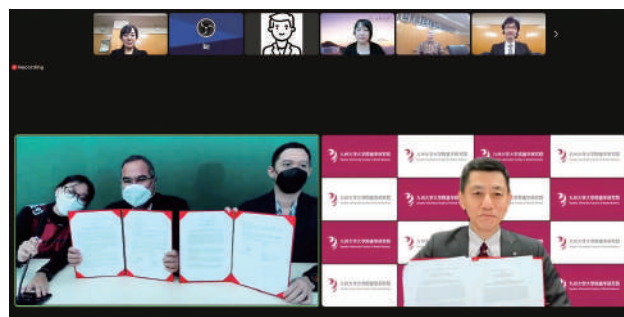
広がる国際交流

2021年4月に、歯学研究院に国際推進室が設置されました。この組織は、教員と事務職員で構成されており、部局内および大学全体の国際頭脳循環を活性化することを目的として、様々な活動をしています。

国際推進室の主な活動・役割は以下の通りです

1. 海外協定校の拡充

これまでの協定校に加え、最近、インドネシアのAIRLANGGA大学(学術交流協定及び学生交流協定、2022年)と、韓国の延世大学と(博士課程ダブル・ディグリー協定、2023年)が新たな協定校に加わりました。AIRLANGGA大学、延世大学は、それぞれの国における最難関大学のひとつです。特に、延世大学との博士課程ダブル・ディグリー協定の締結では、条件を満たせば、九州大学と延世大学の博士号を両方取得することが可能となり、当学府のグローバル人材育成がさらに加速することが期待されます。また、当学部・学府では、九州大学J-MENAオフィスや、トルコ・アンカラオフィスと緊密な連携をとりながら、中東地域の大学との国際連携の可能性について活発な協議を行っています。



AIRLANGGA大学との調印式

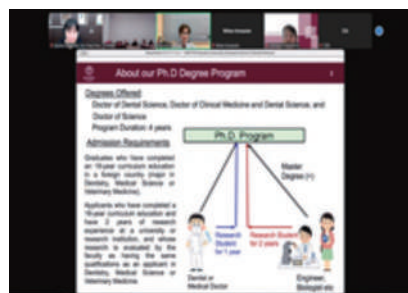


延世大学とのダブル・ディグリー協定調印式

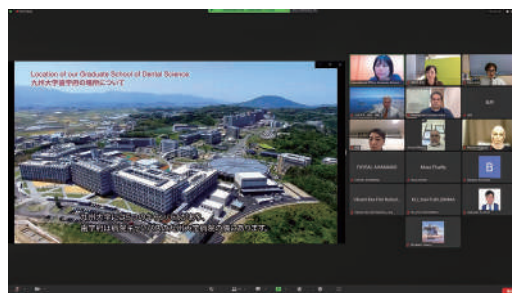
2. 留学生のリクルート及び入国後のサポート

当学部・学府の魅力をより多くの留学生に発信するために、オンラインを活用した留学フェアに積極的に参加しています。留学フェアでは、出願方法や学費などの詳しい説明だけでなく、教員や在学中留学生との交流も可能です。また、当学府では、文部科学省の「国費優先配置」プログラムに採択されており、中東・北アフリカからの留学生を積極的に受入れています。

また、国際推進室では、サポーター制度(学生による留学生来日初期の日常生活支援プログラム)と連携して、来日前後の留学生のサポートも行っています。サポーター学生は、留学生の新生活のセットアップ(役所や銀行での手続きなど)を手助けします。このような制度の下で、当学部・学府での学生同士の異文化交流が自然に育まれています。



トルコの大学生向けの日本留学フェア



九州大学主催のVirtual Graduate Study Fair



サポーターのみなさん

3. 日本人学生の海外留学促進

2024年5月現在、九州大学は34か国の143大学と大学間協定を締結しています。さらに、歯学部では、4つの大学と部局間交流協定を締結しています。当学部・学府の学生は、それら協定の下で、短期間(数週間～1か月)あるいは長期間(1学期～1年以内)の交換留学プログラムに参加することができます。また、それらの海外留学を支援するための九州大学歯学部・歯学府学生教育支援基金も設けられており、一定条件を満たせば、規定内での支援金が支給されます。

最近の当該基金の留学支援実績は下記のとおりです。

- インドネシアAIRLANGGA大学サマースクール(2024年9月2日～9月7日:合計2名)
- カナダ英語研修(2024年9月2日～9月30日:合計2名)



AIRLANGGA大学サマースクール



カナダ・VICTORIA大学英語研修

4. 同窓生などを通じた新規国際ネットワークの構築・広報活動

当学部・学府では、人と人との繋がりをとても大切に思っています。1988～2010年JICA主催歯学教育プログラムでは、合計248人の外国人歯科医師研修生が当学部を訪れました。歯学国際推進室では、このJICA歯学教育プログラム参加者や帰国留学生などとの持続的な交流を願い、2021年8月に第1号のニュースレター(日英二か国語)を発行し、定期的にJICA歯学教育プログラム参加者や帰国留学生などに配信しています。2025年3月現在、合計11報を発行しています。また、2022年に当学部・学府のプロモーションビデオ(日英二か国語)を作成し、当学部・学府のホームページと九州大学のYouTubeに掲載したり、2023年に英語版の歯学部・歯学府紹介パンフレットを作成することで、世界中から当学部・学府の情報収集が可能となりました。我々は、このような広報誌を通じて、当学部・府と繋がりのある人との関係をより一層広く深く結んでいくことを望んでいます。



プロモーションビデオ撮影中



プロモーションビデオに協力してくれた留学生



日英のニュースレター

このように、九州大学歯学部では、将来、国内外でグローバルに活躍する人材を歓迎しています。皆様の入学をお待ちしています！

当学部と学府のプロモーションビデオは右記のQRコードにアクセスすることで見ることができます！





アイルランガ大学サマープログラムに参加して

歯学部5年生(2025年度) 本山莉子(佐賀県立佐賀西高等学校卒)

私は九州大学歯学部への支援を受けて、インドネシアにあるアイルランガ大学のサマープログラムに参加しました。今回のプログラムには、イギリス、イラン、インド、ギリシャ、タイ、日本(東北・鹿児島大学)、ベトナム、マレーシアといった、世界中の国々から学生が参加しており、歯学に関する講義やクリニカルトレーニングの他にも、社会奉仕活動や学校訪問などが実施され、実践的な学びや経験を積むことができました。

今回のプログラムに参加して、文化や宗教など異なるバックグラウンドを持つ人達と交流することができて興味深かったです。また、プログラムに参加していた学生達がとても意欲的で、勉強や自分磨きなどの努力をしている姿を見て感銘を受け、自分も頑張ろうと思いました。今でもSNSを通じて近況を報告しあっており、世界中



に友人を得ることができたのは何事にも代えがたい宝物であると考えています。このような貴重な経験を通して、自分自身の視野を広げ、モチベーションを高めることができました。

九州大学歯学部では、世界で活躍することができる歯科医師の育成のために国際交流を支援する制度がたくさんあり、国際的な感覚を身に付けられると思います。



釜山大学訪問研修に参加してみても

歯学部6年生(2025年度) 國土侑花(香川県立高松高等学校卒)

初めまして。九州大学歯学部5年の國土侑花と申します。私は2023年7月に行われた釜山大学との交流会と2024年2月に行われた釜山大学訪問研修に参加しました。7月の交流会では釜山大学の学生さんが来校し、交流を深めました。2月の釜山大学訪問では私たちが釜山を訪れ、釜山大学病院の見学をしたり、釜山大学の学生さんに案内をしてもらって韓国の文化を学んだりしました。特に病院見学では、VR技術を利用したう蝕除去などのシミュレーション装置を体験させてもらい貴重な経験となりました。

私は元々、短期の留学プログラムには参加したいと思っており、このプログラムは参加人数が多く、先輩からも楽しい研修という話を聞いていたので参加を決めました。実際に参加してみてよかったことは英語を話す機会が増え、英語への苦手意識が減ったことです。移動中のバスや食事会など英語を話す機会はたくさんあり、人生の中で1番英語を話しました。思うように英語

が話せない時にも釜山大学の学生さんが身ぶりで分かってくれて安心して英語が話せました。また海外の歯学部生と交流できたことも良かったです。普段の大学生活の様子やテスト前の勉強の大変さなど共感できることが多く、多くの学生が図書館で勉強している様子には刺激を受けました。

英語に触れる機会を作れるだけでなく、海外の歯科医療についても触れることができる釜山大学訪問研修は私にとって有意義なものとなりました。九州大学には他にも国際交流のプログラムがあり、充実した6年間を過ごすことができると思います。



国際人として活躍する卒業生からのメッセージ

WHO本部口腔保健プログラム テクニカルオフィサー 原田有理子
2016年度 歯学部卒業(西南学院高等学校卒)

私のキャリアは、九州大学歯学部に入学したことから大きく変わりました。大学に入る前までは、海外に行ったこともなく、英語も話せませんでした。しかし、九州大学での6年間と研修医として過ごした1年間、計7年が私にとっての大きな転機となり、現在ではスイスにあるWHO本部にて口腔保健プログラムで働いています。

九州大学は、歯学部だけでなく、他の学部の授業を受けたり、留学生との交流を通じてさまざまな経験をさせてくれました。特に、ラオスやマラウイでのインターン活動では、途上国では歯科医師が不足しているだけでなく、国の保険制度に歯科治療が含まれていないこと、人々が口腔衛生について十分な知識を持っていない現状を目の当たりにしました。木の枝で歯を磨いている人々や、歯科医師がいない村で一般の人がペンチで歯を抜いている場面、そして高額な治療費のために治療を受けられない人々を見て、非常に驚きました。この経験から、すべての人々が健康な口腔保健を享受できる社会を作るために、保健制度の強化と口腔衛生教育がいかに重要であるかを実感しました。



大学6年時 マラウイにある中学校にて口腔衛生教育活動を実施

九州大学歯学部を卒業後、ロンドン大学衛生熱帯医学大学院で公衆衛生の修士課程を修了し、ヨルダンにある国連パレスチナ難民救済事業で小児栄養に関する業務に従事しました。その後、東京女子医科大学の公衆衛生分野で助教として、ネパールにおける糖尿病患者の口腔衛生向上を目的としたガイドライン作成に携わりました。さらに、WHO西太平洋地域事務局で歯科コンサルタントとして勤務し、現在はWHO本部にて口腔保健分野に従事し、各国の保健省の歯科担当官への技術支援を行っています。こんなにも楽しくやりがいのある仕事に携わることができるなんて、幸せだと感じており、そのきっかけを与えてくれた九州大学に感謝しております。そして、今後ますます多くの歯科医師が国際的に活躍することを心から楽しみにしています。



ロンドン大学衛生熱帯医学大学院にて同級生と



WHO本部にて世界口腔保健レポート発刊に際して



WHOでの出張にてバヌアツにて歯科保健政策立案を支援



歯学部サークル紹介

野球部



ラグビー部



テニス部



サッカー部



バスケットボール部



バドミントン部



剣道部



スキー部



ゴルフ部



馬出吹奏楽部



同窓会

歯学部同窓会は全国の同窓生・歯科医師に最新の情報を発信しています。

九州大学歯学部同窓会副会長 白重豊英（福岡県立筑紫丘高等学校卒）

歯学部同窓会では、同窓生の学力・技術力向上のために毎年4月の第4週日曜日に春季学術講演会を150～250名の来場者を集め学術講演会を行っています。また、5月、7月、9月、11月の第4水曜日の19時半より2時間、症例検討セミナーを行い、診療に関する情報交換を行っています。さらに、診療技能のさらなる向上を図るため、コンポジットレジン充填*セミナー（前歯編、臼歯編）、口腔外科セミナー、小児歯科実習セミナーなどの実習付きセミナーを実施しており、今年度から歯内治療（歯の根の治療）の1日実習コースも始まります。春季学術講演会および症例検討セミナーは、新型コロナの流行をきっかけに会場とWebのハイブリッド形式で行っています。当日の講演を編集して後日オンデマンド配信をして何度も視聴できるようにしています。このハイブリッド形式の講演により、遠方の先生方や、当日所用のため受講できない先生方も受講できるようになり、受講生が増える結果となりました。同窓会の色々な分野にたけた先生方の尽力で、他大学の同窓会よりも早い時期にWebを使ったセミナーを行うことができました。これも九大歯学部同窓会の強みです。令和7年度の春季学術講演会、症例検討セミナーもハイブリッド形式で行うため、九大歯学部同窓生を中心に、日本全国から多数の参加が見込まれます。なお、学生はほとんどの企画に無料で参加できるようにしているため、熱心な学生さんも将来を見据えて積極的に参加していますので入学後は積極的に参加してください。

*コンポジットレジン充填：むし歯で悪くなった歯の一部を削って歯の色をしたプラスチックの詰めものをする治療を指します。全国レベルで活躍している、まさに神業のような技術を持つ同窓生による実習だけでなく、技術を競うコンテストも実施しています。



2023年度春季学術講演会の講師、座長、スタッフ一同



「小児歯科実習セミナー」の講師・インストラクター



「臨床医のための症例検討セミナー」の講師

九州大学歯学部同窓会から受験生の皆さんへ 2025

九州大学歯学部同窓会 会長 久保秀郎（福岡県立修猷館高等学校卒）



九州大学歯学部は2025年で創立58年になる学部で、卒業生は2900名を超え、国内はもとより海外でも多くの同窓生が歯科医学の発展のため、また歯と口の機能回復や健康維持のため研究や診療に励んでいます。全国の大学で教授として、あるいは地域の歯科医師会やスタディグループでリーダーとして活躍されている先輩も多数います。

歯学部の卒業生はほぼ全員が歯科医師となるわけですから、世代を越えて同窓生のつながりをとて大事にしています。同窓会は1982年に創設され、同窓生同志の親睦・学術の研鑽・大学の発展を後援すること、さらに歯学部生のサポートを目的に活動しています。学生会員制度もあって大学と連携を取りながら学術活動、卒業生との交流事業、将来像の紹介など多方面から歯学部生をサポートしています。また、2024年から歯学部学生後援会を立ち上げ、国家試験全員合格を目標に活動を開始しました。

九州大学歯学部では、「口腔から全身の健康に貢献する」の理念のもとに優秀な歯科医師の育成に力を注いでいますが、まさに社会はそのような歯科医師を求めています。痛みや悩みをかかえて病院を訪れた患者さんから、治療の終わりには満面の笑みで「ありがとうございます」と感謝の言葉をいただいた時の充実感や満足感はそれまでの苦労を忘れさせてくれます。歯科医はとてもやりがいのある職業です。ぜひ、九州大学歯学部に進路を定めて頑張ってください。入学オリエンテーションでお会いできることを楽しみにしています。